

2020年3月期 第3四半期  
決算説明会

2020年2月4日  
日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

システムサービスを中心に増収および収益性改善が継続。  
売上総利益が大きく伸長したことで営業利益は計画を上回る水準で推移。

(単位：億円)

	3Q累計 (4-12月)		前年同期比 増減	
	2020/3期	2019/3期		
売上高	2,189	1,989	+200	+10.1%
売上総利益	559	503	+55	+11.0%
販管費	△393	△382	△11	△3.0%
営業利益	165	121	+44	+36.4%
(営業利益率)	(7.5%)	(6.1%)		(+1.5pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	119	90	+29	+31.7%
受注高	2,030	2,041	△10	△0.5%
受注残高	2,107	2,259	△152	△6.7%
(内、年度内売上予定分)	585	576	+9	+1.5%

## ＜3Q累計決算のポイント＞

## ■ 売上高

DX関連案件を中心にシステムサービスが底堅く推移したことに加え、アウトソーシングにおける中小型案件の積み上げや、製品需要の取り込み等により増収。

## ■ 営業利益

増収効果およびシステムサービスの収益性改善が継続し売上総利益が大きく伸長。販管費は研究開発費の増加等はあるも計画線で推移。

## ■ 受注高・受注残高

受注高、受注残高ともに大型アウトソーシング案件の更改タイミングの影響で減少。受注残高のうちの年度内売上計上分は前年同期比で増加。

【ご参考】 3Q累計 (4-12月) 業績の推移 (単位：億円)



まずはじめに、2020年3月期第3四半期の決算概要について、ご説明します。

第3四半期累計の業績は、売上高は前年同期比+200億円増収の2,189億円、営業利益は前年同期比+44億円増益の165億円、四半期純利益は前年同期比+29億円増益の119億円となりました。

売上高は、システムサービスおよびアウトソーシングが底堅く推移したことに加え、製品販売の堅調な需要を取り込み+200億円の増収となりました。

利益面では、増収効果やシステムサービスの生産性向上などにより、売上総利益が+55億円の増益となり、研究開発費の増加などに伴う販管費の増加分11億円を吸収して、営業利益は前年同期に比べ+44億円の増益となりました。

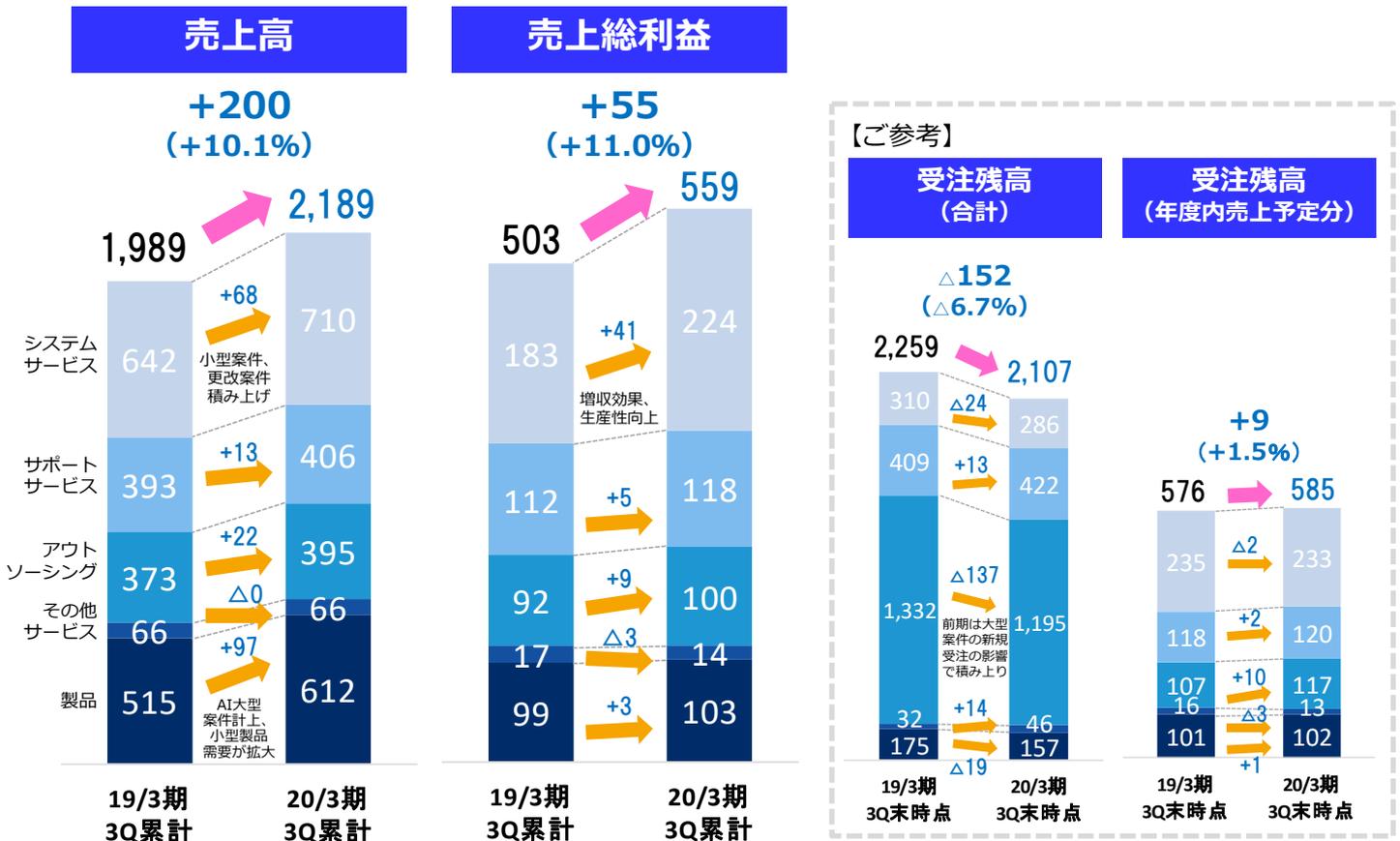
その結果、営業利益率は前年同期比+1.5ポイント向上の7.5%となり、中期経営計画の目標である8%以上の達成に向け着実に進捗しております。

純利益は、営業増益に伴い+29億円の増益となっております。

なお、受注高・受注残高につきましては、複数年にわたってサービスを提供する大型アウトソーシング案件を昨年の第2四半期に受注した影響があり、減少しております。

受注環境につきましては、上期決算以降も引き続き良好で、引き合いも多い状況であることから、12月末の受注残高のうち、年度内の売上計上予定分は前年同期に比べ+9億円増加している状況です。

(単位：億円)



次に、セグメント別の状況についてご説明します。

システムサービスは、引き続きデジタルトランスフォーメーション関連の中小型案件が堅調に積み上っているほか、金融機関やサービス業向けなどで既存システムの更改案件もあり、増収・増益となっています。

また、過去から取り組んできた生産性向上施策の効果もあり、収益性の改善も継続している状況です。

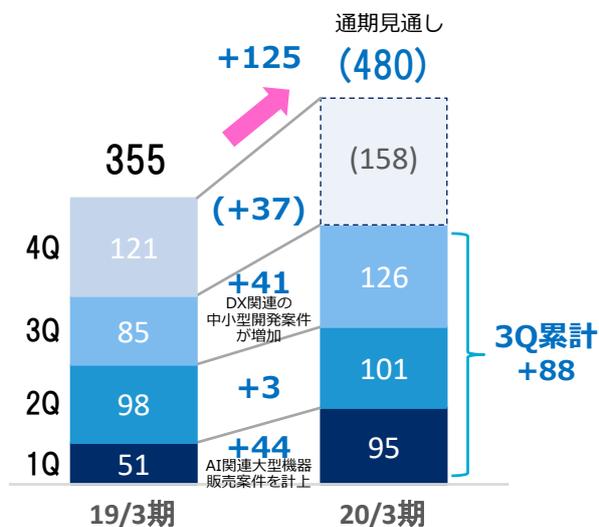
サポートサービスは製品販売が好調に推移していることに伴い、それに付帯する製品の保守売上が着実に積み上がり増収・増益となっています。

アウトソーシングは、比較的小規模のITアウトソーシングサービスが増加しており、増収・増益となりました。

製品は、上期においてPC・タブレットなどの小型製品の需要が旺盛だったことに加え、第3四半期においてメインフレーム案件の計上があったことなどから、増収・増益となっております。

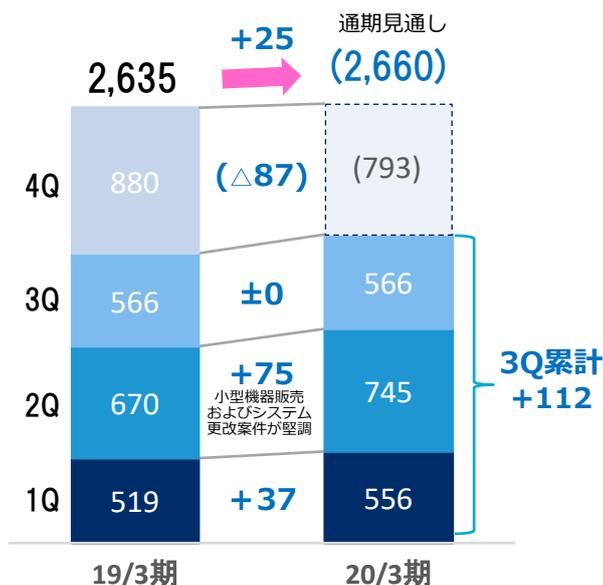
なお、受注残高につきましては、先ほども触れたとおり、大型案件の更改タイミングの影響からアウトソーシングが大幅に減少していますが、当期の第4四半期に大型案件の受注を予定していることから、今年度末においては増加に転じるものと見込んでおります。

注力領域 売上高



- ・顧客接点系を中心としたDX関連の開発案件が堅調
- ・QR・バーコード決済における取扱高の増加
- ・エネルギーマネジメント、MaaS領域等における取り組みが拡大中

ICTコア領域 売上高



- ・システム更改案件を中心に底堅く推移
- ・システム開発・運用における生産性向上への取り組みを継続

続きまして、中期経営計画における注力領域のビジネス状況をご説明いたします。

当第3四半期累計における注力領域の売上高は、前年同期比+88億円増加の322億円となりました。

DX関連のシステム開発案件を中心に、引き続き中小型案件の積み上げで拡大しています。

なお、当第3四半期の手数料型ビジネスにおける売上高は、前年同期並みの水準となりました。

上期までと同様に、QR・バーコード決済において取扱高が増加していることや、ドライブレコーダーなどのモビリティ関連ビジネスが着実に拡大している一方で、決済手段の多様化によりバリューカードの取扱高の減少が継続しております。

通期業績予想を上方修正  
収益性の改善は1年前倒しで中期経営計画で目指す水準に到達する見込み

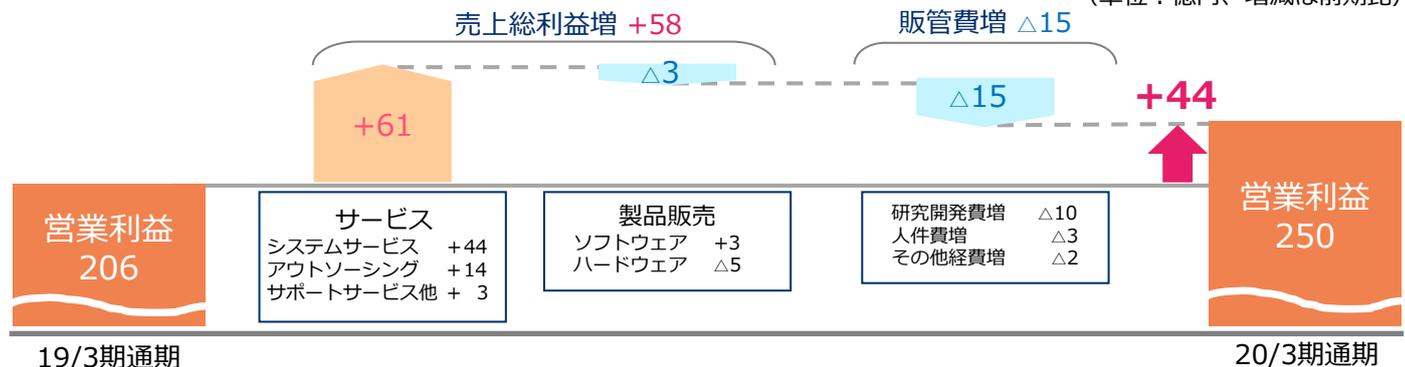
(単位：億円)

	20/3月期 3Q累計実績		20/3月期 4Q予想		20/3月期 通期修正予想		前回予想 (11/6)	前回予想 との差異
	金額	増減	金額	増減	金額	増減	金額	差異
売上高	2,189	+200	951	△50	3,140	+150	3,070	+70
営業利益	165	+44	85	△0	250	+44	230	+20
(営業利益率)	(7.5%)	(+1.5pt)	(8.9%)	(+0.4pt)	(8.0%)	(+1.1pt)	(7.5%)	(+0.5pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	119	+29	56	+4	175	+33	160	+15

\* 通期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

## 【2020年3月期 通期予想 営業利益の増減分解】

(単位：億円、増減は前期比)



UNISYS

4

©2020 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

次に、業績予想についてご説明いたします。

通期の売上高、営業利益、当期純利益予想につきましては、第3四半期までの進捗および足元の受注状況を鑑み、11月6日の公表値から上方修正しております。

通期の売上高は前期比+150億円増収の3,140億円、営業利益は+44億円増益の250億円、当期純利益は+33億円増益の175億円の予想といたします。前回予想からの修正幅としましては、売上高で+70億円、営業利益で+20億円、当期純利益で+15億円の増額となります。

通期の営業利益率の見通しは8.0%となり、来期を最終年度とする中期経営計画のターゲットである8%以上の水準に、1年前倒しで到達する見通しとなっております。

なお、営業利益の増減としましては、売上総利益は増収およびサービスの収益性向上により+58億円増加する一方で、販管費は研究開発費の増加などにより15億円の負担増を見込んでおります。

また、配当につきましては、中期経営計画で示している配当性向40%目途という配当方針に沿って、期初公表より5円増配の年間配当70円を予定しています。

以上をもちまして、2020年3月期第3四半期 決算概要の説明を終了いたします。

ご清聴ありがとうございました。

# Foresight in sight

**UNISYS**

**(注意)**

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。